



unicef 
for every child

ユニセフ
年次報告
2017



ユニセフ年次報告

2017

事務局長からのメッセージ すべての子どもに、機会を

もし、私たちが今、必要な時間と予算を注がなければ、一人ひとりの子どもたちが秘めた可能性を発揮する機会が閉ざされます。

困難な立場や危機的な状況にある子どもたち、若者たちの健康、福祉、基本的人権が守られるようここで力を投じなければ、可能性は実現されぬまま失われます。子どもの人生が幕を閉じてしまう——この影響は、経済的な物差しだけでは計れません。未来ある心と身体が蝕まれていき、やがて家族やコミュニティ、国家の土台さえもが少しずつ崩れていくのです。

しかしもし、教育と保護と愛情を受けて健康に育っていけば、成長した子どもたちはその能力を存分に発揮し、社会の担い手としてより良い世界を実現していく大きな力になるでしょう。

ユニセフ（国連児童基金）は70年以上、最も困難な立場にある子どもや若者がその大いなる可能性を開花させるのに必要な機会が失われぬよう、あらゆる努力を重ねてきました。その機会とは、彼らが保健サービスや栄養、安全な水や衛生環境を享受する機会であり、危害から守られ質の高い教育を受ける機会であり、社会へのインクルージョン（誰もが受け入れられる社会）が保障され偏見や差別のない社会で生きられる機会です。こうした活動を私たちが続けているのは、子どもの権利を信じているからです。そして同時に、彼ら新しい世代がもたらすであろう恩恵を世界が享受できるようにしたいという思いの表れでもあります。技術課題や環境問題を解決できる斬新なアイデアを活用する機会、若いエネルギーと楽観的な物の見方を社会や経済の変革につなげていく機会、そして、波乱と激動の時代に安定と平和をもたらす機会が世界から失われないように、私たちは活動しています。

本報告書にもまとめられているとおり、ユニセフは2017年もこうした機会を実現するために、たゆみない努力を続けました。102カ国337件の緊急事態に対応し、4,500万人に安全な水を届け、重度の急性栄養不良に苦しむ子ども400万人以上を治療し、40カ国14万1,000人の移民・難民の子ども登録を支援しました。それでもこれらは、ユニセフが行った活動のほんの一部にすぎません。



© UNICEF/UN0154449/Nesbitt

私が事務局長に就任してからまだ数カ月しか経っていませんが、日々のこうした活動においてユニセフのスタッフの能力と献身的な活動を目の当たりにしてきました。多くのスタッフは、世界で最も厳しい場所で活動しています。バングラデシュのロヒンギャ難民キャンプをはじめ、シリアや南スーダン、イエメンなどの紛争の長引く地域で活動を続けているのです。

人道支援関係者への攻撃がエスカレートしている現代、ユニセフの支援に携わる勇敢な女性たちや男性たちの安全を確保することは最優先事項となっています。また、支援機関の健全性や透明性が注視され、ユニセフでもすべての活動でこれらを高い水準で実現することが不可欠となっています。

もちろん、やるべきことはまだまだたくさんあります。新たに策定した壮大な「ユニセフ戦略計画2018年-2021年」、そして、さらにその先を見据えた「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を実践していくには、柔軟性のある、安定した支援基盤が必要です。

私たちの成果は、おのずと達成されるものではありません。皆様からの寛大なご支援、そして政府からの拠出金、強力な官民パートナーシップがあって初めて実現できます。こうしたパートナーシップを通じ、民間の科学技術やイノベーション（技術革新）、市場活動や研究開発が、政府の影響力や非

営利団体の実践に活かされています。人々が健康で、質の高い教育を受け、より良い暮らしを送ることの重要性は、民間、政府、非営利団体のいずれにおいても認識されています。

私たちはこれからも目標達成のために協力し、さらに視野を広げていく必要があります。近年、世界が子どもたちの健康と成長のために力を合わせて、5歳未満の子どもの予防可能な死を大幅に減少させるなどさまざまな成果が上がっています。こうした取り組みは今後も継続しつつ、子どもたちが十代、二十代へと成長していくのに合わせて支援の範囲を拡大していかなければなりません。

子どもの人生の最初の数年間に力を注いだからといって、その後の長い人生の幸せが保障されるとは限りません。今こそ、12億人の青少年の成長をサポートする絶好の機会です。彼らの成長過程に応じて、あらゆる機会の実現に向けたサポートをすることで社会に大きな変化をもたらすでしょう。

この機会を捉えるべくユニセフは、2030年までにすべての子どもが学校に通い、学び、訓練を受け、仕事を持つようになることを目指しています。この方針には、政府や国連機関、民間部門や学術機関、市民社会、そして若者自身も含めた幅広いパートナーシップが不可欠です。ともに取り組み、若者のデジタル教育や学校教育、さらに生活や職業に必要な能力を訓練

する機会を拡充できるような革新的な取り組みを考案し、それに必要な予算を投じるとともに、規模の拡大を進めることができるはずです。

今、目の前にある「機会」を逃してはなりません。特に、最も弱い立場にある子どもたち（女の子、移民や難民の子ども、紛争などの人道危機に瀕している子どもなど）にとって、これは重大なことです。人口の危機、教育の危機、雇用の危機、女子のエンパワーメント（社会的地位の向上と能力強化）の危機に対する対応が必要とされています。この機会を逃さず動くこと。それこそがまさに、今の時代に必要な活動です。

私はユニセフの新しい事務局長として、前任者たちの功績を引き継いで共通の理想の実現に邁進したいと考えています。次世代が受け取るべきは、機会。秘めた可能性を発揮する機会です。

すべての子どもに、機会を。



ユニセフ事務局長
ヘンリエッタ・フォア



Bangladesh・コックスバザールのバルカリ難民キャンプのユニセフが支援する学習センターで、ロヒンギャ難民の教え子たちと並ぶサミラ・アクターさん（後列一番右）。2017年8月にロヒンギャの人々への迫害が激化して以降、ミャンマーのラカイン州から Bangladeshへと流入する難民の数が急増しました。ロヒンギャの人々への武力攻撃が始まってから、 Bangladeshに逃れた難民の数は、12月末時点で65万5,000人に上ると人道支援にあたる各機関の部門間調整グループ（ISCG）は発表しています。ISCGが実施した災害時迅速評価によれば、新たに到着した難民の58%が子どもでした。こうした難民の子どもは、受入国の子ども同様、教育へのアクセスを緊急に必要としています。子どもたちに学習の機会を提供するため、ユニセフはパートナーとともに難民キャンプや難民居住地において教員の訓練と学習センターの建設を行っています。

ユニセフ年次報告 2017

目次

事務局長からのメッセージ

すべての子どもに、機会を	2
--------------	---

ユニセフ年次報告 2017

はじめに	6
------	---

01

子どもや若者のために、成果を

人道支援	12
保健	18
HIV／エイズ	26
水と衛生	30
栄養	36
教育	42
子どもの保護	48
社会へのインクルージョン	54
ジェンダーの平等	60

02

成果を高めるイノベーション	64
---------------	----

03

すべての子どもに与えられるべき物資	70
-------------------	----

04

パートナーシップと財政管理	74
---------------	----

はじめに

2017 年はユニセフにとってひとつの章を終え、新たな章をスタートするための準備の年でした。すべての子どもの権利と命、幸せと未来を守るため、190 の国と地域で活動してきたユニセフは、人道支援においても開発援助においても、世界のリーダーとして高い評価を維持しています。2014 年から続く戦略計画の最終年となった 2017 年、子どもや若者のため、彼らとともに達成した過去 4 年間の成果を振り返り、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の達成に向けて新たな課題を検討しました。



成果

2014年から2017年までの戦略計画期間中、ユニセフは、何百万人もの子どもたちに健康な生活と生まれもった可能性を十分に発揮する機会を提供するなど、大きな成果を達成しました。5歳未満児死亡率が大幅に下がったほか、野生株ポリオウイルスによる症例も過去最低を更新し、最貧困世帯の子どものうち小学校に通う人数が増え、発育障害に苦しむ子どもの数も減りました。

また、国際社会による、乳幼児期の子どもの発達（ECD）への必要な予算の投入をはじめとする、貧困や教育の不足への対策強化を導き、児童婚の減少を加速させました。

紛争や災害、脆弱性や不安定さ、移民・難民危機によって子どもの権利と命が脅かされる中でも、こうした成果を上げることができました。

コンゴ民主共和国、ミャンマー、ナイジェリア、南スーダン、シリア、イエメンなどの国々では紛争が継続・激化し、子どもたちは身の危険、栄養不良や病気、貧困といった危機に晒されました。コレラの急増やジフテリア、はしか、マールブルグ・ウイルス（エボラウイルスと同様にウイルス性出血熱を引き起こすウイルス）、エボラ出血熱、ペストの流行も国の保健システムに大きな負担をかけました。また、何百万人もの子どもたちは教育を受けられないリスクに晒されました。

こうした困難な状況の中、ユニセフは着実に前進しています。ユニセフはパートナーの協力を得て、2017年の1年間で以下の成果を達成しました。

7,860万人の子どもにはしかワクチンを提供。

90万人のHIVとともに生きる14歳未満の子どもに抗レトロウイルス治療を実施。

1,250万人の子どもに教材を提供。

1,590万人の子どもの出生登録を実施。

2017年に発生した緊急事態において、ユニセフは以下の支援を実施しました。

400万人の重度の急性栄養不良の子どもに治療を実施。

3,270万人に安全な水へのアクセスを提供。

880万人の子どもに公式・非公式教育を提供。

350万人の子どもに心理社会的サポートを提供。

アドボカシー活動や市民参加

アドボカシー（政策提言）活動や市民参加の促進、資金調達や広報活動を統合し、全組織を挙げて取り組む優先課題を掲げる「コース・フレームワーク（Cause Framework）」と呼ぶ取り組みが2017年に始まりました。この取り組みの目的は、ユニセフの開発援助と人道支援活動のために資源を集約することです。

4つの主要キャンペーン——子どもの健康と生存に焦点を当てた「すべての子どもに生きるチャンス（Every Child Alive）」、乳幼児期の子どもの発達（ECD）に関する「“はじめ”が肝心（Early Moments Matter）」、子どもに対するあらゆる形の暴力の撲滅を目指す「#暴力をなくそう（#ENDviolence）」、移民・難民の子どもたちに焦点をあてた「ふるさとを奪われた子どもたち（Children Uprooted）」は、いずれも成果を上げています。例えば、161カ国で「世界子どもの日」が祝われたほか、移民・難民の子どもたちを保護する「ユニセフ行動アジェンダ（UNICEF Agenda for Action）」の支持者が540万人を突破しました。また、オンライン上のネットワークに関しても、登録者数が世界で10億人に達し、子どもや若者のために6,000万人以上が行動を起こしました。

スタッフの安全を守る

世界の子どもたちを守るには、ユニセフ及びパートナー機関のスタッフの安全を確保することも不可欠です。2017年は、スタッフの保護に関する懸念が後を絶たない年となりました。

緊急支援スタッフは102カ国337件の危機に対応しましたが、紛争地域では人道支援が届きにくく、支援スタッフの活動の保障や安全の確保が課題となりました。スタッフの安全は重要事項のひとつですが、ユニセフでは人道支援及び開発援助の改革とともに、効率や有効性を高める努力も進めています。

透明性とアカウンタビリティ（説明責任）を果たそうとする姿勢も変わっていません。国際機関や慈善団体に対する健全性や透明性が求められている現代でも、ユニセフは世界で最も信頼できる人道支援機関のひとつであり、子どもたちのために活動する最も信頼できる機関のひとつであることに変わりはありません。

パートナーシップを通じて

2017年は子どもたちのためにこれまで以上の努力が求められました。より効率的、迅速、革新的な活動が必要とされたのです。

そうした中、ユニセフは、民間部門や公的部門との協力を通じ、支援活動とアドボカシー活動を加速させるとともに、新たな研究やイノベーション（技術革新）を追求しました。

バイオテクノロジーやサイバースペース（コンピュータやネットワーク上に作られた仮想空間）、人工知能（AI）など、世界を変革する新しい技術に取り組んでいます。こうした新しい分野はいずれも、公平な開発を推進するという私たちの課題に画期的な解決策をもたらすと期待されています。

新たな計画

「ユニセフ戦略計画2014年-2017年」の最終年を迎え、ユニセフでは過去4年間の目標を見直し、次の4年間に子どもや若者のためになすべき新たな計画を検討しました。その結果完成したのが「ユニセフ戦略計画2018年-2021年」です。持続可能な開発目標（SDGs）で示されたゴールに整合し、最も弱い立場に置かれている子どもを中心に、すべての子どもに支援を届けることに焦点を当てた枠組みです。

この新たな計画を実行するには、緊急支援及び長期的な開発援助、ならびにその間のあらゆる段階の活動を通して、最も弱い立場にある子どもに支援を届ける取り組みを新たに行う必要があります。こうした取り組みは、これまで以上に緊急の課題となっています。年次報告にまとめられた2017年の成果と課題にある通り、ユニセフの使命はこれまで以上に重要となっています。そして、結果を出そうとする決意もこれまで以上に強くなっています。

ユニセフの支出総計（2017年）

（単位：百万米ドル）

支出区分

開発支援事業費	5,297
プログラム費	5,148
支援の実効性を高めるための費用	149
管理・運営費	337
国連の開発支援事業に関わる連携調整費	7
特別な支出（設備投資を含む）	40
その他（民間部門との連携とパートナーシップを含む）	155

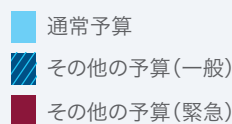
総支出

5,835

注：この表の区分別の支出は、修正現金主義に基づいて示されており、2017年に作成された現金支出や発注などの内部義務文書を反映している。

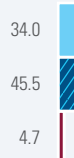
成果分野別の事業支出割合(2017年)

(単位:百万米ドル)

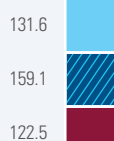


合計
54億
4900万
米ドル

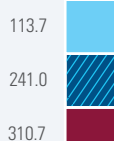
HIV/エイズ



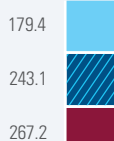
社会へのインクルージョン



栄養



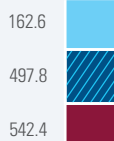
子どもの保護



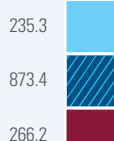
水と衛生



教育



保健

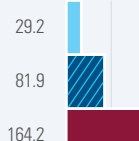


(単位:百万米ドル)

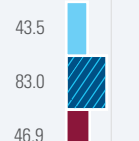
地域別の事業支出割合(2017年)

(単位:百万米ドル)

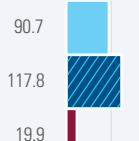
ヨーロッパと中央アジア



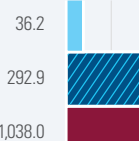
ラテンアメリカとカリブ海諸国



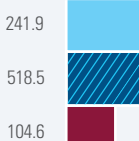
地域間



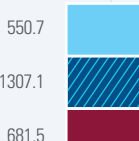
中東と北アフリカ



アジア



サハラ以南のアフリカ*



(単位:百万米ドル)

*ジブチとスーダンへの事業支出は「サハラ以南のアフリカ」に含まれる。

注: 四捨五入のため、合計額は必ずしも一致しない。